釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和７年（2025年）11月４日発行　VOL 31

魔の11月

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

先週の金曜日（10月31日）に、第２回校内授業研究会が行われました。６人の教師（中野教諭、内海教諭、片桐教諭、熊谷教諭、松田教諭、髙橋教諭）が授業を公開し、他の教師は授業における生徒の状況を観察し、発言やつぶやき、思考の変化など気付いたことをメモしていきます。授業後の研究協議において、見取った生徒の姿を交流し、そこから授業改善の方策を導き出します。本校では「生徒が主語になる授業」を目指していることから、授業における教師のテクニックではなく、生徒の学ぶ姿から授業改善の方向性や方策を検討しています。研究協議の最後に、釧路教育局の齋主任指導主事、釧路市教育委員会の関本指導主事、佐藤指導主事から指導助言をいただきましたが、本校の授業づくりや授業改善の取組について評価していただくとともに、具体の改善点を伝えていただきました。多忙の中、本校の授業の質の向上のために貴重な指導助言をいただいた指導主事の皆さんに感謝を申し上げるとともに、授業公開に向けて学習指導案の作成など準備を進め授業に臨んだ教師の皆さんはもとより、生徒たちの学びの姿を熱心に見取り研究協議に臨んだ教師の皆さん、お疲れ様でした。そして、本校の授業づくりにとって意義深い研究会を企画運営してくれた中村教諭に心から感謝を申し上げます。本研究会の成果を生かして、授業改善を加速させていけたらと思います。

このように一つ一つ大切な行事等が終わっていきます。今年度もあと５ヶ月、そして、気が付けば11月に入りました。11月は左記のイラストのように穏やかな印象がありますが、学校においては「魔の11月」と言われます。学年初めの緊張感や新鮮な気持ち、行事の高揚感が一段落し、目標を見失い、気がゆるむ時期に当たります。ルールなども曖昧になったり、いい加減になったり、ほころびが現れやすいとも言われます。更に、生徒同士や教師との関係にも変化があり、学級が荒れる状況が見られるようになります。私たち教師にとっても、多くの学校行事のピークを乗り越え、業務負担が増加し、精神的な疲労が蓄積する時期です。また、季節の変化によって、生徒、教師ともストレスが増えることも一因とされています。学校にとってはピンチと言ってもよいと思います。

「魔の11月」だからこそ、「ピンチだからとうしよう」ではなく、「ピンチをどのようにしてチャンスに変えるか」という発想が大切になります。そのためには、まずは丁寧なコミュニケーションを心掛けることだと思います。日常的な挨拶や声かけ、賞賛することなどを通して、生徒一人一人と向き合う時間を増やし、信頼関係を築くことが重要です。また、あらゆる取組（行事）後の振り返りを大切にしたいと思います。取組の成功を称えるだけではなく、課題を話し合ったり、学級目標を再確認したりする機会を設けることも重要です。そして、早期の兆候への対応はマストだと思います。「ちょっとした荒れ」と呼ばれる兆候を早期に発見し、早めに対応することを徹底します。保護者や地域の皆さんとも「魔の11月」を共有して各種取組を進めたいと思います。お力添えをお願いします。